

ともなりの人物像とは：

文化財愛護協会

名誉会長 鈴木幸市さんが

「ともなり」を語る



を認めていたということです。

「ともなり」については、坐像も残っていませんが、二男の笠間時朝が寄進した仏像の一つに、時朝の身長に合わせたものがあり、そこから察してもかなりの大男で、武士としてかなり威光があつたと思われます。

一方で、「ともなり」は、とても心優しい武将でした。將軍実朝とは親交寵遇あつく、終生変わらない兄弟愛、親子の情愛の深さ、それに人情味豊かな友人関係などが多くの和歌に載せられています。

実朝亡き後、子どもたちや一族のことを考え、出家を遅らせたり、幕府によつて信州に流された傷心の友、伊賀式部光宗をはるばる訪ね慰めもしました。

これらのさまざまなエピソードやその節々に詠んだ歌などによつて、「ともなり」の人物像がうかがえますが、やはり將軍の側近に選ばれる立派な人物ですね。私たち市民は、「ともなり」の残した歌の一つぐらいは、だれでも詠めるようにしたいものです。

※三徳とは、

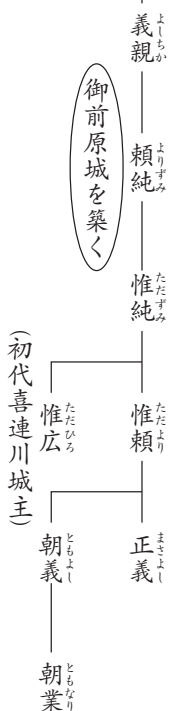
- ・親の代から將軍に仕える勇士
- ・弓矢・馬術が優れている者
- ・礼儀作法がきちんとしていて、真心で仕える者

「ともなり」について、まず言えることは、武将の中の武将だったということです。將軍の側仕えに選ばれることは、文武両道に優れていることはもちろんのこと、さらに三徳※を備えていなければなりません。特に將軍との信頼関係の深さは重要で、將軍から「ともなり」に送られた梅の枝と和歌がそれを裏付ける話として有名です。

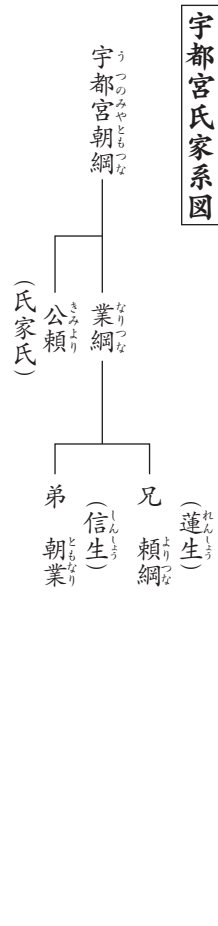
また、幕府に將軍になろうとする疑いを掛けられた阿野全成という將軍頼家の弟を「ともなり」は、幕府から預けられました。これは、「ともなり」が幕府から深い信頼を受けていたことでもあります。要人を預けられるほど、幕府が「ともなり」の武士としての力

塩谷氏(堀江氏)家系図

源 義家
(八幡太郎義家)



宇都宮氏家系図



西暦	年号	ことがら・世の中の様子
1174	承安4	朝業(宇都宮竹千代)が京都で生まれる (父 業綱19歳 祖父 朝綱53歳)
1180	治承4	木曾義仲、源頼朝らが平氏と戦いを始める このころ朝業(宇都宮竹千代)は、頼綱(朝業の兄)と宇都宮へ
1185	文治1	屋島の合戦、壇ノ浦の合戦で那須与一が活躍する 源頼朝が鎌倉に幕府を開く
1190	建久1	源頼朝が京都で天皇に会う 朝綱(朝業の祖父)が頼朝の供をする
1192	建久3	源実朝が生まれる 宇都宮業綱(朝業の父)亡くなる 朝業、塩谷氏の養子になる
1194	建久5	宇都宮朝綱(朝業の祖父)公田横領の罪で土佐に流される 宇都宮頼綱(朝業の兄)が豊後、朝業は周防に流される
1199	正治1	源頼朝が亡くなる このころ川崎城を築き始める
1203	建仁3	源実朝が將軍となる
1204	元久1	塩谷時朝(朝業の子、初代笠間城主)生まれる 宇都宮朝綱(朝業の祖父)が亡くなる
1205	元久2	宇都宮頼綱(朝業の兄)が笠間へ兵を出す 牧氏(頼綱の妻の母)の將軍暗殺計画がわかり、頼綱は出家して 蓮生となり、幕府にあやまる
1212	建暦2	朝業が歌一首を將軍実朝から賜る
1213	建保1	塩谷朝業が將軍家御所へ移住し警護をする
1219	承久1	実朝右大臣拝賀(朝業は警護役として同行) 鶴岡八幡宮の帰り、公暁に殺される
1220	承久2	塩谷朝業が出家して信生となる
1227	安貞1	蓮生(朝業の兄)、信生(朝業)が浄土宗嘉祿の法難に法然上人 の遺体を移送する
1235	嘉禎1	藤原定家が百人一首をびょうぶに書く
1248	宝治2	信生(朝業)が京都で亡くなる 75歳